



2021年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年11月13日

上場会社名 株式会社アスモ 上場取引所 東
 コード番号 2654 URL http://www.asmo1.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 長井 尊
 問合せ先責任者 (役職名) 管理本部長 (氏名) 岡田 夏至 (TEL) 03-6911-0550
 四半期報告書提出予定日 2020年11月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第2四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第2四半期	9,332	△6.1	401	△33.9	417	△32.1	264	△30.2
2020年3月期第2四半期	9,941	1.8	607	16.0	614	14.6	378	14.4

(注) 包括利益 2021年3月期第2四半期 218百万円(△38.8%) 2020年3月期第2四半期 357百万円(△0.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第2四半期	18.86	—
2020年3月期第2四半期	27.01	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2021年3月期第2四半期	8,856	6,216	69.7
2020年3月期	8,877	6,137	68.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第2四半期 6,168百万円 2020年3月期 6,082百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2021年3月期	—	0.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	18,660	△6.0	800	△32.4	830	△30.6	450	△33.2	32.09

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 —社(社名)— 、除外 —社(社名)—

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2021年3月期2Q	15,145,175株	2020年3月期	15,145,175株
② 期末自己株式数	2021年3月期2Q	1,124,513株	2020年3月期	1,124,512株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2021年3月期2Q	14,020,662株	2020年3月期2Q	14,020,745株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び実績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 12
(継続企業の前提に関する注記)	P. 12
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 12
(セグメント情報等)	P. 13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における世界情勢としては、新型コロナウイルス感染症が甚大な人的犠牲を払いながら、経済、社会に多様な変容の圧力を与えました。ロックダウンの段階的な解除と、ロックダウン対策による負担の甚大さに直面した各国政府がウィズコロナを選択したため、世界経済は持ち直しに転じましたが、今なお欧米などでは深刻な感染拡大が続いており、景気回復については引き続き不透明感が強い状況にあります。

わが国の経済においても、9月の日銀短観では業況判断において製造業・非製造業ともに改善の兆候が見られるなど景気は一旦ボトムアウトしましたが、新型コロナウイルス感染症の影響は根強く、コロナ以前の水準までは戻っておりません。

当社グループにおいても新型コロナウイルス感染症の影響を直接受けている一部の事業では売上の減少が見られます。また、介護事業、給食事業部門においては、新型コロナウイルス感染症の影響を直接受けていないことより売上高は堅調に推移いたしました。コロナ禍の予想を超えた長期化に起因する対応コストの負担を余儀なくされました。結果として、今期におきましては売上高・経常利益共に前年同四半期比で減少いたしました。

当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高9,332百万円（前年同四半期比6.1%減）、営業利益401百万円（前年同四半期比33.9%減）、経常利益417百万円（前年同四半期比32.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は、264百万円（前年同四半期比30.2%減）となりました。

売上高の減少は、主に新型コロナウイルス感染症の影響を受けアスモトレーディング事業およびASMO CATERING (HK) 事業の売上が減少したことによるものであります。営業利益、経常利益の減少は、第1四半期に引き続き売上高の減少に加え、アスモフードサービス事業における人材派遣費用の増加や、アスモ介護サービス事業における人件費の増加等によるものであります。売上高営業利益率は前年同四半期より1.8ポイント減少して4.3%となりました。

今後におきましては、長期化する逆風の中、アフターコロナを見据え、各事業部門が引き続き強い使命感を持って事業に従事していくことで、売上高の増加、売上高営業利益率の改善に加え、グループの事業を成長させる事に邁進してまいります。

セグメントごとの状況は次のとおりであります。

セグメント名称 (セグメントに該当する会社)	主要な事業の内容	
アスモ事業 (株式会社アスモ)	グループ会社の統制・管理、不動産賃貸	
アスモトレーディング事業 (株式会社アスモトレーディング)	食肉の輸出入、食肉及び食肉加工品の販売	
アスモフードサービス事業 (株式会社アスモフードサービス) (株式会社アスモフードサービス首都圏) (株式会社アスモフードサービス東日本) (株式会社アスモフードサービス中日本) (株式会社アスモフードサービス西日本)	高齢者介護施設等における給食の提供	
アスモ介護サービス事業 (株式会社アスモ介護サービス) (株式会社アスモライフサービス)	訪問・居宅介護事業所の運営、有料老人ホームの運営	
ASMO CATERING (HK) 事業 (ASMO CATERING (HK) CO., LIMITED)	香港における外食店舗の運営	
その他	(サーバントラスト信託株式会社)	管理型信託商品の販売
	(アスモ少額短期保険株式会社)	少額短期保険商品の販売
	(ASMO CATERING (TAIWAN) COMPANY LIMITED)	台湾における外食店舗の運営

① アスモトレーディング事業

アスモトレーディング事業におきましては、7月に国内需要喚起を目的としたGo Toトラベルキャンペーンがスタートするなど、新型コロナウイルス感染症の影響により低迷していた主要マーケットである外食産業をとりまく環境は底打ちしたと思われませんが、インバウンド需要が期待される観光客の入国制限が続いていることより回復までには時間を要する状況にあります。そのような状況下で、通信販売事業においては安定的に販売が続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けることなく推移いたしました。最重点販売をしているメキシコ産チルド牛肉

が予定通りに販売できなくなるなど、厳しい状況が継続いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、1,205百万円（前年同四半期比32.2%減）、セグメント利益（営業利益）は21百万円（前年同四半期比55.9%減）となりました。

今後におきましては、Go Toトラベルキャンペーンの東京解禁と10月からポイント還元が始まるGo Toイートキャンペーンに加え、入国制限の緩和を追い風と捉え、販路をしっかりとグリップすることで業績の回復に専念してまいります。

② アスモフードサービス事業

アスモフードサービス事業におきましては、以下の様々な要因を受け厳しい状況で推移いたしました。

- ・緊急事態宣言解除後における需要変動
- ・全国的に低温傾向で記録的な多雨と日照不足となった気候による食材仕入価格の乱高下
- ・長期化する新型コロナウイルス感染症対策に伴うマスクやその他衛生用品費の継続的支出
- ・勤務環境改善を目的として増員した現場職員の定着化を図るための紹介予定派遣費用の発生

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,800百万円（前年同四半期比1.7%増）、セグメント利益（営業利益）は173百万円（前年同四半期比31.6%減）となりました。また、受託施設件数については、当第2四半期連結会計期間末現在、256施設（前年同四半期末は259施設）となりました。

今後も長引く新型コロナウイルス感染症の影響を最小限に止められるよう、仕入れ業者の選定や従業員への感染防止についてもさらなる徹底を図り、お客様への安心・安全なサービスの向上へ繋げてまいります。

③ アスモ介護サービス事業

アスモ介護サービス事業におきましては、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、及び有料老人ホーム運営事業を営んでおり、業界全体としては高まる需要に対して、恒常的な人手不足と、それに伴う人件費の上昇など、足元・先行きとも厳しい状況にあります。

そのような状況の中、教育制度や資格補助制度の拡充をはじめ、キャリアパスの明確化、事務作業の軽減など改善施策を地道に行ってきたことにより、職員の定着率向上と新規採用を実現し、安定的にサービスを提供できる機会が確保できました。

その結果、訪問介護事業所、居宅介護支援事業所、及び有料老人ホームのご利用者様数を順調に伸ばしてまいりましたが、当第2四半期連結累計期間においては、長期化する新型コロナウイルス感染症対策として引き続き新規でのご利用者様の受け入れを抑えた影響により売上は微増にとどまることとなりました。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のための各種消耗品費用の支出や、職員への特別手当の支給が継続していることより経費負担は高止まりいたしました。

これにより当第2四半期連結会計期間末現在、訪問介護事業所36事業所（前年同四半期末は36事業所）、居宅介護支援事業所12事業所（前年同四半期末は12事業所）となり、支援させていただいておりますご利用者様は2,080名（前年同四半期末は2,077名）となりました。また、有料老人ホーム6施設（前年同四半期末は6施設）、ご入居者様は344名（前年同四半期末は328名）となりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は3,391百万円（前年同期比6.5%増）、セグメント利益（営業利益）は330百万円（前年同期比18.6%減）となりました。

今後も引き続きご利用者様の獲得に努めていくとともに、充実した雇用環境を創ることで、より良い人材の確保と定着率向上に努め、介護サービスの更なる質の向上を図ってまいります。

④ ASMO CATERING (HK) 事業

ASMO CATERING (HK) 事業におきましては、減少傾向にあったコロナ感染者数が7月上旬より第3波によって増加したため、緩和されつつあったレストランに対する様々な営業制限が非常に強い規制で再開されました。9月以降新規感染者数は減少しつつありますが、当局としては第2波の際に安易な規制緩和を行ったことが第3波を招いたのではないかと批判を受けているため、今回は規制が緩和されるまで時間を要すると思われます。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、674百万円（前年同四半期比30.9%減）、セグメント損失（営業損失）は43百万円（前年同四半期はセグメント損失51百万円）となりました。

コロナ禍が長期化する中で、依然として食品スーパー各社は非常に好調に推移しており、香港における『内食』

化はコロナ後も習慣として市民に根付く可能性が高いと考えられることより、当社といたしましては、当期上半期において昨年対比売上118%の実績を出しております太古城APITA内にある惣菜ショップ『彩』の営業スタイルを参考に今後の事業を展開してまいりたいと考えております。

⑤ その他の事業

その他セグメントに含めておりますサーバントラスト信託株式会社は管理型信託事業を展開しており、入居一時金保全信託、法人・個人向けの金銭管理信託、及び不動産管理信託を主力とした信託商品の販売を行っております。同じくその他セグメントに含めておりますアスモ少額短期保険株式会社は、少額短期保険事業を展開しており、企業の従業員への福利厚生制度としての生命保険商品、及び高齢者施設入居者のケガや家財の補償、及び介護サポートを目的とした損害保険商品等を販売しております。

サーバントラスト信託株式会社においては、新型コロナウイルス感染症の長期化による営業の機会損失に起因した新規受注の伸び悩みと大口契約の解約により減収減益となりました。高齢者施設入居者向けの損害保険商品を取り扱うアスモ少額短期保険株式会社では、コロナ禍に伴う介護の利用控えによる影響が懸念されましたが、介護の利用控えがショートステイやデイサービスなど軽度者の利用が多い一部のサービスに留まったことより大きな影響を受けることなく推移いたしました。

以上の結果、その他セグメントにおける当第2四半期連結累計期間の売上高は、258百万円（前年同四半期比1.3%減）、セグメント利益（営業利益）は、19百万円（前年同四半期比53.1%減）となりました。

超高齢化社会を迎え、高齢者の財産管理や資産承継、あるいは高齢者が安心して暮らせるためのニーズが高まりつつある日本社会において『信託制度』『少額短期保険』の需要が今後ますます高まっていくものと予想されることより、今後もシルバーマーケットの拡大とともに成長が期待できるものと考えております。

(2) 財政状態に関する説明

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における総資産は8,856百万円となり、前連結会計年度末に比べ21百万円減少いたしました。これは主に現金及び預金が58百万円、商品が16百万円増加し、受取手形及び売掛金が33百万円、有形固定資産が37百万円減少し、貸倒引当金が30百万円増加したことによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債合計は2,640百万円となり、前連結会計年度末に比べ99百万円減少いたしました。これは主に賞与引当金が45百万円、流動負債のその他に含まれる未払金が20百万円、および未払消費税等が34百万円増加し、未払法人税等が112百万円、流動負債のその他に含まれる預り金(主に親会社への配当に伴う源泉税)が82百万円減少したことによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産合計は6,216百万円となり、前連結会計年度末に比べ78百万円増加いたしました。これは主に利益剰余金が124百万円増加し、為替調整換算勘定が9百万円、退職給付に係る調整累計額が28百万円減少したことによるものであります。

この結果、自己資本比率は69.7%（前連結会計年度末は68.5%）となりました。

(3) キャッシュ・フロー

当連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は4,734百万円となり、前年同四半期末に比べて523百万円の増加となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は以下のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは198百万円の収入となりました。これは主に税金等調整前当期純利益417百万円や減価償却費61百万円に加えて、賞与引当金の増加による収入45百万円、その他負債の増加による収入51百万円、法人税等の支払額366百万円などによるものであります。

また、前第2四半期連結累計期間に比べてキャッシュ・フローが124百万円増加している主な要因として、仕入債務の増減額の増加（前年同期比+100百万円）、その他の負債の増減額の増加（前年同期比+168百万円）などが挙げられます。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における投資活動によるキャッシュ・フローは3百万円の収入となりました。これは主に貸付けによる支出18百万円、差入保証金の差入・回収差による収入17百万円などによるものであります。

また、前第2四半期連結累計期間に比べてキャッシュ・フローが7百万円増加している主な要因として、差入保証金の差入・回収差による収入の増加（前年同期比+17百万円）が挙げられます。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当連結会計年度における財務活動によるキャッシュ・フローは139百万円の支出となりました。これは主にリース債務の返済による支出29百万円、配当金の支払額120百万円などによるものです。

また、前第2四半期連結累計期間に比べてキャッシュ・フローが60百万円減少している主な要因として、短期借入れによる収入の減少（前年同期比△39百万円）、リース債務の返済による支出の増加（前年同期比△20百万円）などが挙げられます。

以上のとおり、当社グループの当第2四半期連結累計期間の資金状況は、営業活動によるキャッシュ・フロー収入と投資活動によるキャッシュ・フロー収入を合わせた、いわゆるフリー・キャッシュ・フローが201百万円の収入であることから、財務活動によるキャッシュ・フローにおける配当金支払やリース債務の返済を十分にカバーできる水準となっております。

資本の財源につきまして、当社グループの運転資金・設備投資資金は期中の一時的な子会社の借入やリース債務を除き、自己資金により充当しております。当第2四半期連結会計期間末の有利子負債残高はリース債務231百万円および短期借入金10百万円のみであります。主に介護タクシー事業開始に伴うリース車両の取得により、前年同四半期末と比較して103百万円増加しております。

資金の流動性につきましても、現金及び現金同等物の当連結会計期間末残高が4,734百万円であることから、十分な資金を確保できており、小規模なM&Aや隣接事業への拡大についても対応できる水準であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点における通期の連結業績予想は、2020年11月5日に公表いたしました予想に変更はありませんが、日本経済及び世界経済に多大な影響を与えている新型コロナウイルス感染症が予想を上回る深刻な状況で長期間にわたり収束に向かわない場合においては、経済状況や事業環境の変化等様々な要因により業績が予想と異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,745,546	4,804,502
受取手形及び売掛金	2,022,654	1,989,394
商品	287,474	303,557
貯蔵品	11,941	11,988
その他	381,379	400,324
貸倒引当金	△96,812	△111,459
流動資産合計	7,352,182	7,398,307
固定資産		
有形固定資産		
その他(純額)	364,946	327,271
有形固定資産合計	364,946	327,271
無形固定資産		
その他	43,183	39,677
無形固定資産合計	43,183	39,677
投資その他の資産		
その他	1,442,352	1,432,378
貸倒引当金	△324,946	△341,065
投資その他の資産合計	1,117,406	1,091,313
固定資産合計	1,525,535	1,458,263
資産合計	8,877,718	8,856,571

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	488,375	475,229
短期借入金	—	10,090
未払法人税等	273,288	160,589
賞与引当金	247,592	293,423
その他	1,362,969	1,336,913
流動負債合計	2,372,226	2,276,245
固定負債		
退職給付に係る負債	181,735	187,582
その他	185,868	176,354
固定負債合計	367,604	363,936
負債合計	2,739,830	2,640,182
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,323,272	2,323,272
利益剰余金	3,633,874	3,758,148
自己株式	△42,516	△42,516
株主資本合計	5,914,630	6,038,904
その他の包括利益累計額		
繰延ヘッジ損益	84	△51
為替換算調整勘定	111,755	101,984
退職給付に係る調整累計額	56,285	28,142
その他の包括利益累計額合計	168,125	130,075
非支配株主持分	55,132	47,408
純資産合計	6,137,888	6,216,388
負債純資産合計	8,877,718	8,856,571

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年9月30日)
売上高	9,941,752	9,332,939
売上原価	7,668,804	7,455,208
売上総利益	2,272,947	1,877,730
販売費及び一般管理費	1,665,095	1,475,750
営業利益	607,852	401,980
営業外収益		
受取利息	3,431	3,269
助成金収入	4,098	29,315
その他	7,641	4,713
営業外収益合計	15,171	37,298
営業外費用		
支払利息	617	2,354
貸倒引当金繰入額	4,423	15,926
為替差損	3,074	3,278
その他	—	98
営業外費用合計	8,115	21,656
経常利益	614,907	417,622
特別利益		
固定資産売却益	—	0
特別利益合計	—	0
特別損失		
固定資産売却損	—	93
固定資産除却損	2,578	0
特別損失合計	2,578	93
税金等調整前四半期純利益	612,329	417,528
法人税、住民税及び事業税	247,095	154,537
法人税等調整額	△1,164	3,487
法人税等合計	245,931	158,024
四半期純利益	366,397	259,503
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△12,259	△4,977
親会社株主に帰属する四半期純利益	378,656	264,480

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
四半期純利益	366,397	259,503
その他の包括利益		
繰延ヘッジ損益	△20	△135
為替換算調整勘定	△6,005	△12,518
退職給付に係る調整額	△2,729	△28,142
その他の包括利益合計	△8,755	△40,796
四半期包括利益	357,642	218,707
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	371,056	226,431
非支配株主に係る四半期包括利益	△13,414	△7,724

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	612,329	417,528
減価償却費	54,094	61,794
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	4,581	30,768
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	15,316	△22,295
賞与引当金の増減額 (△は減少)	26,990	45,919
受取利息及び受取配当金	△3,431	△3,269
支払利息	617	2,354
為替差損益 (△は益)	2,129	1,496
有形固定資産売却損益 (△は益)	—	93
有形固定資産除却損	2,578	0
売上債権の増減額 (△は増加)	△8,974	△3,326
その他の資産の増減額 (△は増加)	△30,566	△23,238
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△3,769	△17,368
仕入債務の増減額 (△は減少)	△112,206	△12,201
その他の負債の増減額 (△は減少)	△116,832	51,206
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△36,242	34,890
その他	△334	△352
小計	406,279	563,996
利息及び配当金の受取額	365	445
利息の支払額	△617	△2,354
法人税等の支払額	△332,895	△366,601
法人税等の還付額	626	2,669
営業活動によるキャッシュ・フロー	73,758	198,156
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△4,304	△3,574
有形固定資産の売却による収入	—	10
無形固定資産の取得による支出	—	△425
定期預金の預入による支出	△70,017	△70,017
定期預金の払戻による収入	70,011	70,017
差入保証金の差入による支出	△57,401	△57,108
差入保証金の回収による収入	57,025	74,263
貸付けによる支出	△7,689	△18,121
貸付金の回収による収入	—	500
建設協力金の回収による収入	7,898	7,898
投資活動によるキャッシュ・フロー	△4,477	3,442

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	50,000	10,090
リース債務の返済による支出	△9,805	△29,922
自己株式の取得による支出	△27	△0
配当金の支払額	△119,872	△120,139
財務活動によるキャッシュ・フロー	△79,705	△139,972
現金及び現金同等物に係る換算差額	△4,408	△2,669
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△14,833	58,956
現金及び現金同等物の期首残高	4,225,822	4,675,528
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,210,989	4,734,484

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフ ードサービ ス事業	アスモ介 護サービ ス事業	ASMO CATERING (HK)事業	計
売上高						
外部顧客への売上高	2,376	1,778,344	3,737,421	3,184,912	976,301	9,679,355
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	36,419	122,683	—	—	159,102
計	2,376	1,814,763	3,860,104	3,184,912	976,301	9,838,457
セグメント利益又は損失(△)	△90,790	49,389	253,125	405,859	△51,946	565,637

(単位:千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	262,397	9,941,752	—	9,941,752
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	159,102	△159,102	—
計	262,397	10,100,854	△159,102	9,941,752
セグメント利益又は損失(△)	42,257	607,895	△43	607,852

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	565,637
「その他」の区分の利益	42,257
セグメント間取引消去	△43
四半期連結損益計算書の営業利益	607,852

II 当第2四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					計
	アスモ 事業	アスモトレ ーディング 事業	アスモフー ドサービス 事業	アスモ介護 サービス 事業	ASMO CATERING (HK) 事業	
売上高						
外部顧客への売上高	2,376	1,205,380	3,800,506	3,391,215	674,531	9,074,010
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	14,661	123,785	—	—	138,447
計	2,376	1,220,042	3,924,292	3,391,215	674,531	9,212,458
セグメント利益又は損失(△)	△99,638	21,797	173,148	330,359	△43,650	382,016

(単位：千円)

	その他 (注)	合計	調整額	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高				
外部顧客への売上高	258,929	9,332,939	—	9,332,939
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	138,447	△138,447	—
計	258,929	9,471,387	△138,447	9,332,939
セグメント利益又は損失(△)	19,825	401,841	138	401,980

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれていない事業セグメントであります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

利益	金額
報告セグメント計	382,016
「その他」の区分の利益	19,825
セグメント間取引消去	138
四半期連結損益計算書の営業利益	401,980